

聞いてもいいですか

2024. 6. 13

中学校の部活動に行っている。顧問の先生がよく、「先生、聞いてもいいですか」と尋ねてくる。この前は、「新チームの部長って、いつ頃決めればいいんですか」ときた。この先生が、「先生、聞いてもいいですか」とくるときは、いつも大事な質問である。

「3年生が団体で県大会に行く場合は、県大会が終わるまでは3年生がそのまま部長。個人で行く場合は、県北大会が終わったら2年生に切り替えたほうがいい」と答えた。さらに、「部長を決めるのがむずかしいんだよね。顧問が指名する、生徒に選ばせる、一番技術があり強い選手にするとかあるけど」と話した。

家に帰ってから、さらに考えた。顧問をしていたときに、“一日部長”制度というものをやったことがあった。3年生が抜けて、新チームに切り替わるタイミングで、2年生が日替わりで部長を務めていくのである。その日の部長は、部活動が始まる前に、職員室の私のところにやってくる。練習内容を説明し、練習メニューを書いたメモを渡す。

昨年の夏に教え子たちに会う機会があった。ある教え子から教えてもらったことがある。その教え子は、未だに、自分が一日部長を務めたときの練習メニューが書かれたメモを持っているという。これには、さすがに驚かされた。そして、考えた。その紙はその教え子にとってどんな存在なのだろうか。自分ががんばった証、自分にとっての勲章、あるいはお守りだろうか。

他の教え子たちが言っていた。自分に一日部長がまわってきて、職員室に練習メニューを聞きに行くときは緊張したと。こちらとしては、一人一人の2年生と話すことができる時間だったのだが。

一日でも部長をやってみれば、その大変さがわかるだろう。自分にはできそうだが、あるいは、自分には向いていないということもわかるだろう。全員が部長のように行動できればという思いもあったかもしれない。顧問として、そんなことを考えていたような気がする。2年生が10人いれば、全員が一日部長を経験するのに10日かかる。さほどの期間ではない。

「先生、聞いてもいいですか」の答えとして、一日部長の話はしていない。果たして、今の生徒たちに、このやり方があっているのかという懸念もある。だが、何年経っても、自分が部長だった日の練習メニューを大事に持っている教え子の話を聞くと、そうわるい方法でもないと思えてくる。

次の「先生、聞いてもいいですか」は、どんな内容だろうか。だんだん聞かれるのが楽しみになってきた。この先生と、一緒に悩み考えていきたい。